

HOTEL SPA-MU

季刊 2021.04~06

No.61

答えがお解りになりましたらフロントへご連絡いただき、メンバーズNo.と間違い部分をお知らせください。
全問ご正解されたメンバー様には粗品をプレゼントさせていただきます。

SPA-MU
暇つぶし間違い探しクイズ
(メンバー様限定) (1回正解まで)



正解イラスト



間違いイラスト

間違いは7箇所です

新企画!俳句 & 川柳コンテスト

4月10日~6月10日まで

写真を見てひらめいた俳句か川柳をメール送信またはアンケート用紙に書いてください。ご応募いただければ参加賞をプレゼントします。
(必ずメンバーズナンバーを書いてください)

※メンバー様限定



※1日5句まで何度でも投稿できます。

※参加賞は1句につき200ポイントです。1週間後位に付与されます。

宛先：spam@fk2.so-net.ne.jp

お題の写真

ホテルスパム



お風呂



新緑



紫陽花



デート



愛



スパム賞、優秀賞、面白賞などスパムスタッフが独自の審査で決めてプレゼント致します。

発表は次号のスパム四季報とホームページで発表します。



じゃんけんスクラッチカード

5月21日~6月30日まで

大好評につき、またまた「じゃんけんスクラッチカード」を実施します。参加方法はとっても簡単!

卓上に置かれた「じゃんけんスクラッチカード」をこすればOK。

擦って勝ったらフロントまでご連絡ください。

※ 期間中でもスクラッチカードがなくなり次第終了いたします。



今回のプレゼントは新感覚マウスウォッシュ
「プロポリンス」です。

通常の口内の汚れだけでなく、口臭のもとになるタンパク汚れもしっかり落としてくれる洗口液です。口内環境のケアはデートの際のエチケットだけでなく、感染症対策としても有効であることが今年3月の国会でも取り上げられていました。
フレーバーは「柚子」「桜」「プレーン」の3種類！

予定数(4,000個)で終了となりますのでお早めにお試しください！



Food & Service フード&サービス

4月からグランドメニューが春夏ヴァージョンになります



わっぱめし&さっぱり麺

4月中旬からは…

※詳しくは机の上のポップをご覧ください。



さくら海老のペペロンチーノ和風そば



北海五目わっぱめし



竹の子と鶏つくねのわっぱめし

韓国フェア (6月中旬~)

※詳しくは机の上のポップをご覧ください。



サムパブ



ジャージャー麺



イカチヂミ



東京都江東区の深川エリアには、松尾芭蕉ゆかりの句碑があちこちに建っています。芭蕉記念館には芭蕉庵の模型などが展示され、芭蕉庭園では隅田川を眺める芭蕉の胸像があります。

松尾芭蕉とはいったい何者だったのか。俳句の本質は何かについて、少し書いてみたいと思います。

古池や かはずとびこむ 水のおと

俳句で最も有名なこの句の成立は、はじめに芭蕉が「かはずとびこむ水のおと」を詠み、弟子の其角が「山吹や」でどうかと提案したところ、芭蕉は「古池や」を詠んで決まりました。どこかの田舎に古池があって、その情景を見てつくった句ではなく、江戸の街でつくられたのです。蛙が飛びこむ音は聞こえたのかもしれませんが(事実是不明です)、古池は芭蕉の心の中の想像でした。



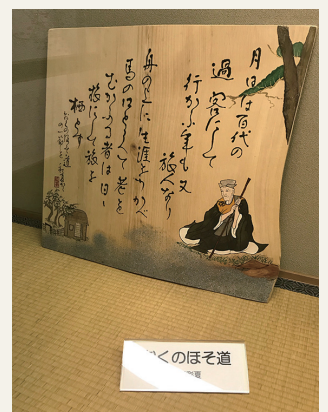
俳句の歴史をさかのぼると、まず和歌がありました。王朝時代の頃までは「優美さ」や「細やかな情感」を表現するもので、鎌倉時代以降にそれは、わびさび幽玄の「雅(みやび)」を表現するものになってゆきました。和歌を相互に詠んでゆく「連歌(れんが)」が流行していました。

江戸時代に入ると、もっと遊び心をとりたいよう大阪を中心に、「俳諧の連歌」が生まれました。「俳諧」とは「滑稽」の意味です。俳諧の連歌は100回または36回のやりとりでつくられます。その最初の一句を発句と言い、この発句が単独で評価されるようになってゆきます。「俳句」という名称になったのは明治に入ってからでした。

さて、滑稽な句を詠む二大流派がありましたが、芭蕉は、当時の最先端をゆく新奇さを争うのではなく、古典的な心の芸術の本質へと回帰したのです。一人の天才によるルネッサンスが起きました。江戸深川に芭蕉庵をつくり棲み、多くの門人をかかえ最大の流派になりました。ほかの流派はやがて没落し消えてゆきました。

芭蕉は実作の人で、弟子や一門のための教えの書は著しませんでした。世阿弥の『風姿花伝』のようなものはないのですが、一門随一の論客であった各務支考を筆頭に、何人かが芭蕉の口述筆記をしたほか、俳諧論を書いています。支考の書によれば、芭蕉の心に浮かぶ想像力の卓越さは際立っていたとのこと。

そんな天才芭蕉は、平安から鎌倉時代の歌人であった西行に私淑していました。奥の細道への旅を筆頭に芭蕉が幾度も旅を重ねたことや、古典の心の芸術へと回帰したことは、同じ旅人として、しっかりと心の濡れる抒情歌を詠んでいた西行の影響が大きかったようです。



人工知能や最先端テクノロジーの話題に席卷される現代世相ですが、人間の本質とは何かを、芭蕉とともに味わう時間をもうけるのも一興かと思えます。